

筒森トンネルだより

発行元：五洋・片岡特定
建設工事共同企業体

夷隅郡大多喜町葛藤
603-1
0470-80-9567
渡辺 憲一

ご挨拶

大多喜町筒森地区の皆様、初めまして。五洋・片岡特定建設工事共同企業体と申します。このたびご縁があり国道465号線の「(仮称)筒森トンネル」の工事を施工させて頂くことになりました。

五洋建設は東京に本社を置く建設会社です。片岡工業は一宮町に本社を置く建設会社です。この二社で協力してこのトンネル工事に当たります。

工事の概要

国道465号は、茂原市を起点として大多喜町を通り富津市に至る経路で東京湾横断道路、東関東自動車道館山線などの高規格道路に接続し、交流ネットワークを形成することにより横断道路の波及効果を夷隅地域に及ぼす重要な幹線道路です。

筒森バイパスは、起点側



君津側坑口



大多喜側坑口

1.0kmおよび筒森橋前後0.3kmについては、平成11年度までに供用しています。今回は残り2.4km間のうち筒森トンネル(仮称)を施工するものです。

地元説明会開催

3月20日(日)筒森区「もみじ館」にて地元説明会を開催いたしました。お忙しい中、多数の方に来場頂きました。ありがとうございました。

4月の工事予定

4月の工事予定は次のとおりです。
4月初旬～中旬はトンネルを掘るための仮設備を施工します。トンネル坑口予定地付近、国道大曲りの付近、麻綿原林道入り口付近での工事となります。工事用車両等が出入りいたしますのでご協力をお願いいたします。
また、中旬～下旬はトンネルを掘るための口(坑口と言います)をつける工事をします。大型の掘削機などが搬入されますのでガードマンを配置しますがご協力をお願いします。

立入のお願い

当日は本工事の概要、トンネル工事の具体的な施工方法をスクリーンを使ってご説明しました。また、地元の方からもたくさんご質問を頂きました。
貴重なお時間を割いてご来場頂いたことをこの紙面を借りてお礼申し上げます。

本トンネルにおいて土被りと地表面との距離が小さな区間(君津市黄和畑側)においては「機械掘削工法」と併用して、補助工法として、「注入式鋼管先受け工法」を採用してまいります。
この工法は、トンネル内の変位を減らすことにより、地表面への影響を極力低減するものですが、地表面に観測点を設置し、毎日観測します。
この観測点を設けるお願いと、日常的に観測するのお願いに参ります。
是非ともご協力をお願いします。

事務所案内

五洋・片岡JVの現場事務所を左の図面の位置(養老温泉入り口)に設置しました。御用の向きはお出でください。また、工事現場には現場詰め所を設置する予定です。



トンネル余話

トンネルとは、地上から目的地まで地下や海底、山岳などの土中を通る人工の、または自然に形成された土木構造物であり、断面の高さにあるいは幅に比べて軸方向に細長い地下空間をいう。
1970年OECDトンネル会議では「計画された位置に所定の断面寸法をもって設けられた地下構造物で、その施工法は問われないが、仕上がり断面積が2㎡以上のもとする」と定義された。
人工のものは道路、鉄道(線路)といった交通路(山岳トンネル、地下鉄など)や水道、電線等ライフラインの敷設(共同溝など)、鉱物の採掘、物資の貯留などを目的として建設される。

日本ではかつて中国語と同じく隧道(ずいどう)と呼ばれていた。常用漢字以外の文字(隧)が使われているために、第二次世界大戦後の漢字制限や用語の簡略化、外来語の流入などの時代の流れにより、今日では一般的には「トンネル」と呼ばれるようになった。(ウィキペディアより)